

カトリック京都教区
奈良南部ブロック
2009年4月1日～2010年3月31日
短期目標・宣教司牧計画

ビジョン

このちらしの表紙にはブロック「ビジョン宣言」が書いてあります。これは、ブロックの理想の形を示すもので、ブロックの信徒、修道者、司祭一人ひとりの希望を表すものです。

目標

目標は、わたしたちのビジョンを実践するための決意を表すものです。南部ブロックは2008年から5年間の「長期目標」を作成しました。そして今年もブロック会議を通して、長期目標を目指す一年間の「短期目標」を作成しました。

計画

毎年「短期目標」と同時に「宣教司牧計画」を作成しました。これは、今年、目標を果たすために何をすべきかを具体的に表わすもので、ブロック共同体の決意です。ブロックの一年の活動の全部を表わすものではなく、今年特に強調した点を示すものです。

ビジョン・目標・計画を作る目的は、ブロックや各小教区を発展させ、刷新することです。

「共同宣教司牧計画」を効果的にするように、わたしたち一人ひとりの祈りが必要ですが、それに加えてどの程度計画が実現されているかどうか、毎回のブロック会議、小教区評議会で検討することも必要です。

A 信徒の信仰を深めるように

目標① より多くの信徒が聖書を読む習慣づけをすることを目指します。

計画1

各小教区の聖書の分かち合う場を知らせ、参加する人数を増やす。

計画2

国際交流ミサを年1回（10月18日）行う。
（場所は西大和カトリックセンター）

目標② 召命を深めるために、現代社会に生きるカトリック信者としての召命を、一人一人の生活の中で確認し、深めることを目指します。

計画3

「ゆるしの秘跡」を度々受けるようにし、お互いの召命について分かち合う機会を持つ。

- 例：「司教年頭書簡」をテーマの基本にして、地区集会などを利用して分かち合う。
- 2009年5月より各小教区で月一回（日曜日）に「ゆるしの秘跡」を実施する。

B 隣人を快く受け入れるように

計画4

2009年の教会一致祈禱週間に当たってエキュメニカル祈禱会を開催する。

計画5

各教会で奈良南部朝禱会を広く知らせ、現在の7時半からの集いに加えて10時からの集いを始めるように他の朝禱会メンバーと共に働きます。

C 奉仕し、福音宣教するように

目標③ 信徒が非キリスト者の知り合いを教会の活動に招くことを目指します。

計画6

復活祭、クリスマスミサに友人、知人を招く。

目標④ 活動部会制度を充実させることを目指します。

計画7

より多くの信徒がいずれかの活動部会に参加するように努めます。

会議の前の祈り

この祈りは、「ブロック会議」を除き、その他の集まりで唱える。

万物の創り主、父である神よ、
教会を運営する会議で集まったわたしたちが
自分の願いではなく、み心を行うよう
聖霊を送ってください。

(黙祷)

初代教会の全判断の指針となった聖霊よ、
わたしたちを正しい道に導いてください。

現代の、この地方の教会のための
最善の宣教司牧方針を識別するように
知恵を与え、それを実現するように
勇気と忍耐を与えてください。

(黙祷)

「二人または三人がわたしの名によって
集まるところにはわたしもその中にいる」

と約束した主イエスよ、
今日もわたしたちと共に働いてください。

(黙祷)

栄光は父と子と聖霊に、
初めのように、今もいつも世々に。
アーメン。

イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。イエスがその家で食事をしておられたときのことである。徴税人や罪人も大勢やって来て、イエスや弟子たちと同席していた。

ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。イエスはこれ聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。『わたしが求めるのは憐みであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

《マタイによる福音書 9章9～13節より》



「マタイの召命」

カラヴァッジオ 1601 (油彩)

ローマ、サン・ルイージ・デイ・フランチェージ

カトリック京都教区
奈良南部ブロック
2009年4月1日～2010年3月31日

短期目標・宣教司牧計画



《テーマ》

「家庭と仕事を通して社会で福音を証し、召命促進のために祈り、働くことを目指します」

わたしたち、カトリック京都教区奈良地区
南部ブロックのビジョンは、
聖霊の導きにより、典礼と日常生活の中で、
祈り、聖書を学び、分かち合いなどを通して、
信仰を深め、隣人を快く受け入れ、奉仕し、
福音宣教する共同体になることです。